一人内覽になりなんとこそは思はれけんに、例にまかせて大臣内覽の辭表を上たりけるを、返しも給はらで後、次の年正月に、左大臣ばかりはもとのごとしとて有けり、〇略中主上の御事悲しみながら、例にまかせて雅仁親王新院御所におはしましけるむかへまゐらせて、東三條南の町高松殿にて、御讓位の儀めでたく行はれにけり、されば世を玄ろしめす太上天皇と、攝籙の臣の親の前關白殿ともに、兄を憎みて弟をかたひき給で、かゝる世中の最大事を行はれけるが、世の末のかくなるべき時運もつくりあはせてければ、鳥羽院知足院一御心になりて、しばし天下の有けるを、この巨害のこの世をばかくなしたりける也、されど鳥羽院の御在生までは、まのあたり内亂合戰はなくてやみにけり、

〔保元物語〕新院御むほんおぼしめしたつ事

新院〇崇德日ごろ思召けるは、昔より位をつぎゆづりをうくる事、かならずちやくそんにはよらねども、其うつはものをえらび、外せきのあんふをもたづねらるゝにてこそあれ、是は只當腹のてうあいといふばかりをもつて、近衛院に位をおしとられて、うらみふかく過しところに、せんてい體仁の親王〇近衛かくれ給ぬる上は、重仁親王〇崇德皇子こそ帝位にそなはり給ふべきに、思ひの外に、又四の宮〇後白河にこえられぬるこそ口をしけれと御いきぐはりありければ、御心のゆかせ給ふ事とては、近習の人々に、いかにせんずるぞと常に御だんがふ有けり、宇治の左大臣頼長と申は、知足院禪閤殿下たゞざねこうの三男にておはします、〇略中關白殿、〇通忠と〇略中御兄弟の上、父子の御けいやくにて、れいぎふかくおはしましけれども、後には御中あしくぞ聞えし、されば左大臣殿思食けるは、一院〇羽鳥かくれさせ給ひぬ、今新院の一の宮玄げひと親王を位につけ奉りて、天下を我なゝにとりおこなはゞやと思ひ立給ひければ、つねに新院へ參り、御殿居有ければ、上皇も此大臣を深く御たのみ有て、おぼせあはせらるゝ事ねんごろなり、或夜新院左大臣